

常なる磐

つねなる いわ

令和2年12月11日(金)
その2

◇ きっかけ④ 記念式典に向けた準備の経過を振り返る

「きっかけ」というのは絶妙な存在で、その「きっかけ」を境に事が善きに転じることは多々あることである。

(※事が悪しき方向に転ずる場合、「きっかけ」は使わずに「発端」や「ひきがね」を用いる。)

ただし、「きっかけ」とするかどうか、できるかどうかは、その人に委ねられる。絶妙なタイミングだと悟って「きっかけ」とするのか、ぼうっと聞き逃し、見過ごして好機を逃すかは、受け手の心持ちが大部分を占める。

幾度となく好機を逃してきた自分であるが、今回(式典に向けた準備)は違った。

<ここから パート4 (その4・最終記) >

実のところ、地タイルの洗浄を始めた5月当初、正門の補修計画はあった。

しかし、児童昇降口前のピロティー整備や校舎壁面の洗浄、校内各所の壁面塗替えまでの考えはもっていない。

補修・修繕の拍車がかかったのは、やはり「きっかけ」が重なるのだ。

それは、9月5日(土)のこと。PTA資源回収とPTA役員会を終え、前日に行った「正門の校名石板塗装」の仕上げ作業を行っていたところ、役員会を終えて帰路に就くPTA役員のUさんが、補修された校名石板を見て話された。

※Uさんの会話の部分は、からっとした明るいイメージ。

U： 校長先生、何をされているんですか？

私： 学校名の塗り直しです。

U： すごいじゃん。 先生がやったの？

すごいきれいじゃん。
すごい。 すごい。 ※めちゃくちゃ褒め上手

私： ありがとうございます。

U： 一人でやったの？ すごいじゃん。 で、終わったら、他に何かやるんですか？

私： 正門だけは白色に塗り直す計画があります。

U： いいじゃん。 正門が終わったら、もっとどんどんやったら？

そうだ。 いっそのこと、学校全部塗り替えちゃったら？ あははは…(笑)

私： 全部？ んー、やっちゃいますか？

U： どんどんやっちゃん、学校全部。 あはははははは…(W大笑)

もちろん冗談を含んだやりとりだが、褒める時は、照れを超えてこちらが気持ちよくなるくらいにUさんは褒めてくれた。

文字色の変化に子供が気付くのは想定内。ただ、保護者が喜んでくれることは全く想定していなかったため、褒めてもらえた意外さが喜びを増大させた。

嬉しさに加え、『本番は正門だから、練習としての手始めにどこかで試してみるか』という思い、そして、記念式典を屋外で行うことが決定した時期も重なり、『じゃあ、体育館渡りの通路壁でも試しに塗ってみるか』ということになる。

元来、ものづくりは好き。さすがに壁塗りは経験なかったが、子供の頃からプラモデルの塗装はしてきて、体や衣服が塗料で汚れることは全く気にならない。加えて、十分すぎるくらい木製品にニス塗ってきた経験から、刷毛の扱いについても問題ない。それどころか毎年のように生徒に教えてきた。こうした様々な要因が重なり、眠りかけていた血が騒ぐというか、呼び起こされてゆくのだ。

こんな経緯で校内各所の補修を手掛けたわけではあるが、振り返ってみれば、何気ないUさんとの会話が、最初の、そして大きな「きっかけ」になったということだろう。

そして、式典を10日後に控えた式典実行委員会後のこと。また、Uさんは褒めてくれるが、得意の冗談交じり調で、まさかの一言を織り込んでくる。

※Uさんの会話の部分は、からっとした明るいイメージ。

U： 校長先生、めちゃくちゃきれいになったねえ。

私： Uさんに言われたように、学校丸ごと全部というわけではないですけどね。

U： まだ、一週間ぐらいあるじゃん。校長先生、頑張る。あと、一週間あるよ。間に合いそうもなかったら、ペンキを上から掛けちゃえば？ あははは…(笑)

私： そうか。ペンキを上から掛けちゃいますか。あははははは…(W大笑)

はじめの「きっかけ」はUさんの一言。

そして、最後のラストスパートの「きっかけ」もUさんにいただいたわけだ。

式典当日。苦勞を全て払拭させる言葉を保護者からいただくことになる。

『私が小学校4年生の時に、この学校ができたんです。

常磐小から転校する形で常磐東小に通うようになって、その時は学校が真っ白だったんです。それを今でも、よく覚えています。

また、その姿が見られるなんて。ありがとうございます。』

4回にわたり、冒頭で

「きっかけ」とするかどうか、できるかどうかは、その人に委ねられる。

絶妙なタイミングだと悟って「きっかけ」とするか、ぼうっと聞き逃し、見過ごして好機を逃すかは、受け手の心持ちが大部分を占める。

などと偉そうに綴ってきたが、大きな間違いであったことに気付いた。

語り手の伝え方が、やる気の「きっかけ」の大部分を占める と言い換えたい。

授業も同じ。行事も同じ。子供をやる気にさせる「きっかけ」を教師が作れるかどうか、伝えられるかどうか。それを考えさせられた【きっかけ】となった。

Fin